

平成 19 年度 第 3 回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成 19 年 11 月 30 日（金）10 時 30 分～15 時 00 分

場 所：学士会分館 8 号会議室

出席者：

区 分		氏 名	出欠	区 分		氏 名	出欠	
三役等	会長	丸 井 英 明	○	支 部 長	北海道支部	前 田 寛 之	○	
	副会長	落 合 博 貴	○		東北支部	事業計画部長兼任		
	副会長	広 嶋 孝 也	○		新潟支部	早川嘉一(代理:野崎保)	欠	
	専務理事	綱 木 亮 介	○		関東支部	鵜 飼 恵 三	欠	
	前会長	山 岸 宏 光			中部支部	北 沢 秋 司	○	
委員	表彰委員長	古 谷 尊 彦	○		関西支部	末 峯 章	○	
	教育問題委員長	岩 尾 雄 四 郎	欠		九州支部	宜 保 清 一	欠	
各 部 部 長	総務部部长	小 野 慎 吾	○		支 部 長 代 行	北海道支部	米 田 哲 朗	
	編集出版部部长	阿 部 真 郎	○			東北支部	千 葉 則 行	○
	事業計画部部长	檜 垣 大 助	○			新潟支部	稲 葉 一 成	
	国際部部长	宮 城 豊 彦	欠	関東支部		若 井 明 彦		
	研究調査部部长	八 木 浩 司	欠	中部支部		小 野 和 行		
部 長 代 行	総務部	小 林 佳 嗣		関西支部		福 岡 浩		
	編集出版部	新 屋 浩 明		九州支部		福 田 順 二		
	事業計画部	伊 藤 俊 方		財政委員長		総務部長代行兼任		
	国際部	上 野 雄 一	○	広報委員長		太 田 英 将	欠	
	研究調査部	榎 田 充 哉	○	庶務委員長		山 崎 勉	○	
					出席者数	15		
					欠席者数	5		

○開会

- ・会長挨拶
- ・前回議事録報告・承認

I. 議題

I-1. 次期役員選挙と総会について(総務部長)

総務部長より、役員選挙のスケジュール・推薦委員名簿案について報告がなされた。本提案を理事会に諮ることを決定した。

< 討議 >

- ・学会活動の主体となる各部の部長は、理事で構成すべきではないか。

I-2. 次期表彰委員の選任について(総務部長)

総務部長より、次期表彰委員案の説明がなされ、本提案を理事会に諮ることを決定した。

< 報告 >

- ・これまでの委員会の運営状況などを考慮して、委員数を 15 名から 9 名にすることを提案。

< 討議 >

- ・人数減により専門外分野の評価では、必要に応じて委員会以外の会員の意見を伺うことも必要。

I-3. 2008年 地すべり国際会議について(上野国際部長代行)

国際部長代行より, second circular と国内参加者確保の方策について報告され, 参加者確保のために一層の働きかけが重要との認識を再確認した。

<報告>

- ・国内参加者獲得の方策として, CPD 付与, プレゼンの一般公開, 著名研究者の参加, 目標人員の設定などが必要。
- ・ICL 代表者会議や国際会議での積極的な PR を実施している。
- ・開催県である宮城県への挨拶を予定している。
- ・公的助成金が見込めないので, 小口のスポンサーを募る活動をはじめた。

<討議>

- ・他学会や東北支部以外の支部への積極的な働きかけを行う。
- ・寄付を得られる可能性のある団体等をピックアップし, 事業計画部へ報告する。

I-4. 平成20年度シンポジウム, 研究発表会について(檜垣事業計画部長)

事業計画部長より, 平成20年度のシンポジウムと研究発表会の概要が報告され, 日程・テーマについて承認された。

<報告>

- ・シンポジウムは5/12(月)東大弥生会館とし, テーマは「続・地震と地すべり」とする。
- ・研究発表会は神奈川県箱根, 見学コースのひとつは火山性地すべりとする。

<討議>

- ・現地見学会が物見遊山的であり, 現場を踏査し議論する方式とすべきではないか。
- ・複数の見学コースを設定することで, このようなニーズに応えられるのではないか。
- ・運営や安全面でこのような対応は難しい。ただ最近規模が縮小傾向であるので, 可能かもしれないので, 検討する。
- ・会員のニーズに基づき, 検討を進めることが重要。

I-5. 平成21年度研究発表会について(檜垣事業計画部長)

事業計画部長より, 「開催地決定から決算までの流れ」が説明された。開催地決定は, 北海道・東北・新潟支部での討議を経て, 支部長間で調整を図る。グループ間での調整のため, グループ長を設ける。

<報告>

- ・開催地決定は前年の3月までとする。

<討議>

- ・H21年度からはグループ間で開催支部を決定するので, スムースな調整のため, 事業計画部から担当支部へ文書により連絡する。
- ・北海道支部はまだ検討していないが, 30周年行事や前回開催を考慮して, 今回はパスしたい。
- ・東北支部はH20年の学会主催国際会議もあり, 実質的に難しいのではないか。
- ・各支部とも事情があるが, 新潟支部では前向きな意見もあり, 支部で検討を行う。
- ・グループ間での調整を図る必要があるため, グループ長を決定しておくべきである。

II. 報告

II-1. 企画委員会報告(各企画委員長)

各企画委員長より、活動報告・活動予定・自己評価等が報告された。

(1) 会勢拡大企画委員会

- ・学生を対象とした拡大策を検討し、活動計画を立案し、各部長を中核メンバーとして推進を図ることが提案された。

<討議>

- ・広報部を設けて、HPを中心とした会勢拡大策が必要ではないか。
- ・このような活動をひとつの部で対応するのは負担が大きいため、分担することが望ましい。

(2) 会費検討企画委員会

- ・通期収支予測では 400 万円の赤字となる見込み。原因は受託物件がゼロであること、書籍販売が不調であること等であるが、構造的に問題がある。
- ・このため、3 月末理事会の承認を経て、次年度総会での会費値上げの提案もやむを得ないと考える。

<討議>

- ・値上げにより会員減や活動停滞を生じないように、十分な検討が必要である。
- ・市場ニーズを分析して計画的に出版計画を進め、収益増を図る。
- ・販売方法(直接販売や出版社経由・書店販売)で様々なリスク(利益や著作権・労力)があるので、さまざまな角度から検討が必要。
- ・最近の出版物は収支トントンであるので、今後収益が見込める。会誌等での在庫出版物の PR を行う。
- ・会員への寄付依頼も、増収のひとつの方法。

(3) 新公益法人対応企画委員会

- ・大きな進展は特になし。

<討議>

- ・支部への交付金の税務監査などがあるとなれば、支部事務方へ留意事項の説明や講習会が必要である。
- ・謝金の取扱いや意見交換会の消費税の取扱いについて、事務局で調査し連絡する。
- ・事務局で処理の留意点について調査し連絡する。

(4) 出版事業企画委員会

- ・「出版規則案」がほぼ完成。今後「運用規定案」を検討する。

(5) 情報公開企画委員会

- ・進捗ほとんどなし。今後、一般向け・英語版 HP を進めるが、HP 維持方針の検討が重要である。

(6) 災害対応企画委員会

- ・規定・マニュアルの修正を行い、最終版として施行しながら修正を図る。保険の契約について保険会社と協議中。
- ・海外調査については保険料が高いため、個別に検討する。
- ・費用負担は現実的には非会員のみとし、会員については保険料のみとする。

II-2. 各部、支部からの報告(各部長、支部長)

各部長、支部長より、活動報告・活動予定・自己評価等が報告された。

- (1) 総務部
 - ・年間学会活動手順書の作成が遅れ気味。
- (2) 研究調査部
 - ・パキスタン業務は来年度以降に期待が残るので、積極的に働きかけを行う。
- (3) 編集出版部
 - ・論文の投稿は良好であるが、査読の遅れが問題であり、管理手法を検討する。
- (4) 国際部
 - ・1年後の国際会議への取り組みを中心に活動。
- (5) 事業計画部
 - ・三重大会の参加者は、500名程度となり計画を達成した。
- (6) 東北支部
 - ・応用地質学会との共催講習会が盛況。他学会との共催、CPD 認定が効果。今後の参考となる。
- (7) 新潟支部
 - ・支部出版物の販売代金の報告は必要か。→年度末の決算報告で確認。
- (8) 中部支部
 - ・大会現地見学会の学生参加者が少ない(1名)。今後の会勢が心配。
- (9) 関西支部
 - ・現地検討会に国交省のバスを借りるなどのコスト削減対策を行っている。

Ⅲ. その他

Ⅲ-1. CPD の取扱いについて(事務局)

事務局長よりCPD の取扱いの検討の必要性が報告された。後援等の研修については基本的にCPD 認定するが、今後規定等の整備を進める。

<報告>

- ・他協会から学会のCPD 認定要請がきており、今後体系的にCPD 認証するシステムを構築する必要があると思われる。

<討議>

- ・CPD 取扱規程が必要であり、今後進めていく。基本的に、公開であること、学会の後援や共催の講習会であることが要件となる。
- ・教育問題委員会でもCPD の検討が含まれているので、今後調整を図る必要がある。

Ⅲ-2. 公開HP 維持管理の分担について(事務局)

事務局長よりHP の維持管理の現状とリスク管理のための分担制が提案された。継続的に意見を集約し、事務局と情報公開企画委員会で素案を作成する。

<報告>

- ・他協会から「学会のHP にリンクを張ってもらいたい」との要請がきている。

<討議>

- ・中部支部では分担制がとられているが、その現状と課題が報告された。担当者はHP 作成方法を講習会で訓練した。

Ⅲ-3. 研究発表会剰余金の扱いについて(事務局)

事務局長よりH19 研究発表会の剰余金の取扱いについて提案がなされた。

<報告>

- ・剰余金は168万円。支部助成金20万円は支部へ返還する。
- ・予算は総会を経なければならないため、それまでの活動資金の裏付けがない。

<討議>

- ・赤字の場合に補填するのは本部であり、剰余金は本部のものとし、当該年度で決算処理するのが基本原則である。
- ・黒字は支部の実績として評価することが重要。

閉会

以上

(記録:山崎 文責:小野)